

CASBEE® - 建築(新築) | 評価結果 |

■ 使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2014年版 使用評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2014(v.3.01)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	慶應義塾湘南藤沢中等部・高等部体育館・普通教室など増築工事	階数	地上2F、地下1F
建設地	神奈川県藤沢市遠藤字刈込5322番 他6筆	構造	RC造
用途地域	準工業地域、防火地域指定無し	平均居住人員	634 人
地域区分	6地域	年間使用時間	1,150 時間/年
建物用途	学校	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2018年8月 予定	評価の実施日	2017年5月1日
敷地面積	9,037 m ²	作成者	株式会社 谷口建築設計研究所
建築面積	3,028 m ²	確認日	2017年5月1日
延床面積	4,645 m ²	確認者	株式会社 谷口建築設計研究所

外観パース等
図を貼り付けるときは
シートの保護を解除してください

2-1 建築物の環境効率 (BEEランク&チャート)	2-2 ライフサイクルCO ₂ (温暖化影響チャート)	2-3 大項目の評価 (レーダーチャート)
<p>BEE = 1.1</p> <p>S: ★★★★★ A: ★★★★★ B1: ★★★★★ B2: ★★★★★ C: ★</p>	<p>30% ★★★★★ 60% ★★★★★ 80% ★★★★★ 100% ★★★★★ 100%超: ★★★★★</p> <p>標準計算 ① 参照値 ② 建築物の取組み ③ 上記+②以外の ④ 上記+</p> <p>46 (kg-CO₂/年・m²)</p> <p>このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです。</p>	<p>Q1 室内環境: 3.3 Q2 サービス性能: 3.4 Q3 室外環境(敷地内): 3.0 LR1 エネルギー: 3.0 LR2 資源・マテリアル: 2.9 LR3 敷地外環境: 3.0</p>

2-4 中項目の評価 (バーチャート)		
<p>Q 環境品質 Qのスコア = 3.2</p>		
<p>Q1 室内環境 Q1のスコア = 3.3</p>	<p>Q2 サービス性能 Q2のスコア = 3.4</p>	<p>Q3 室外環境(敷地内) Q3のスコア = 3.0</p>
<p>LR 環境負荷低減性 LRのスコア = 2.9</p>		
<p>LR1 エネルギー LR1のスコア = 3.0</p>	<p>LR2 資源・マテリアル LR2のスコア = 2.9</p>	<p>LR3 敷地外環境 LR3のスコア = 3.0</p>

3 設計上の配慮事項		
<p>総合 既存中学校・高等学校の教室と体育館の増築が主目的であり、教室の機能および教育的環境をさらに向上させることを目的としている。 既存建物と調和した外構、外観、内装計画とすることで、既存の風景と調和し、既存棟と一体となった教育的環境となることを目指している。</p>	<p>その他 0</p>	
<p>Q1 室内環境 教育施設としての環境に配慮した計画とした。特に教室については、教室間の間仕切り壁をコンクリート造とし音環境に配慮し、南西側の採光換気用の開口部は、庇、外部ルーバー、スクリーンによって直射日光を制御するように配慮した。</p>	<p>Q2 サービス性能 既存建物と同等以上の空間的な快適性を確保しながら、維持管理に配慮した計画とした。また、節水型便器などの新しい設備を取り入れた。</p>	<p>Q3 室外環境(敷地内) 敷地内の既存緑地帯が計画地となるため、極力、伐採樹木を少なくし、環境を保つ計画を目指した。緑地化が可能な部分には、既存と同様の樹種などで、既存緑地と調和した緑化を行った。風景を創ってきた既存建物とバランスよく調和し、景観に配慮した計画とした。</p>
<p>LR1 エネルギー LED照明を採用し省エネに配慮した。自然換気に配慮した計画とした。</p>	<p>LR2 資源・マテリアル 節水型便器などを用い、水資源保護に配慮した。</p>	<p>LR3 敷地外環境 雨水貯留施設(遊水池)を経由し、雨水排水を行い、地域インフラへの負荷を抑制している。既存建物と調和する外観とすることで、より厳しい日影規制の基準をクリアしている。</p>

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■ Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■ 「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■ 評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される